

国語科学習指導案

指導者 祖父江 開

- 1 日時 平成27年11月18日（水）
- 2 学年・組 第3学年4組
- 3 単元名 「食べ物のひみつを教えます」
- 4 単元目標

◎目的に適した事例を挙げながら、説明する文章を書くことができる。

【関心・意欲・態度】

食べ物について関心を持ち、調べてわかったことをわかりやすく説明しようとしている。

【書くこと】

書く目的によって必要となる事柄と観点を理解して、適切な事例を挙げて説明する文章を書くことができる。

【言語事項】

説明するために必要な語句を、辞書を引いて調べている。

- 5 単元について

（1）児童の実態

（2）テーマに迫るための手立て

港北区視聴覚研のテーマ

「わかる・楽しい授業のための教育メディアの効果的活用法を探ろう」

～学びを深め、広げる情報・視聴覚教育～

<視聴覚機器の活用についての手立て>

資料を効果的に提示するため、発表の助けとするために OHC を使用する予定である。

<国語科についての手立て>

学習指導要領の第3学年の国語科の目標には次の記述がある。

- 1（1） 相手や目的に応じ、調べたことなどについて筋道を立てて話す能力、話の中心に気をつけて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身につけさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

また、「書くこと」の領域には次の記述がある。

- 2（1）ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。

オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。

（2）（1）に示す事項について、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。

イ 疑問に思ったことを調べて報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすると。

ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。

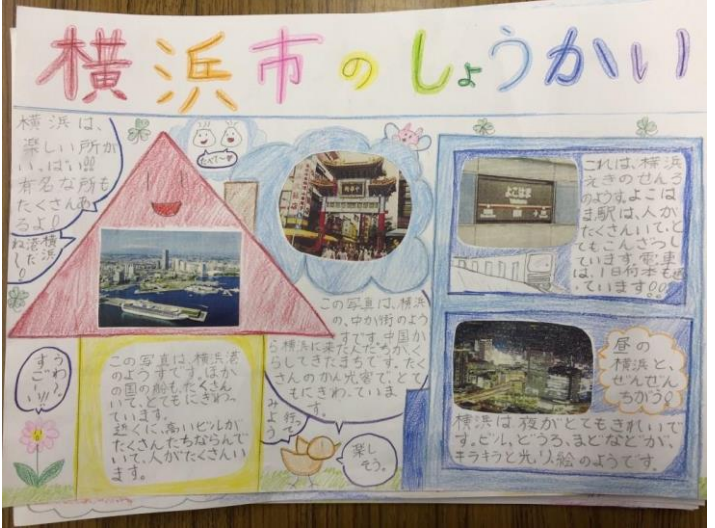
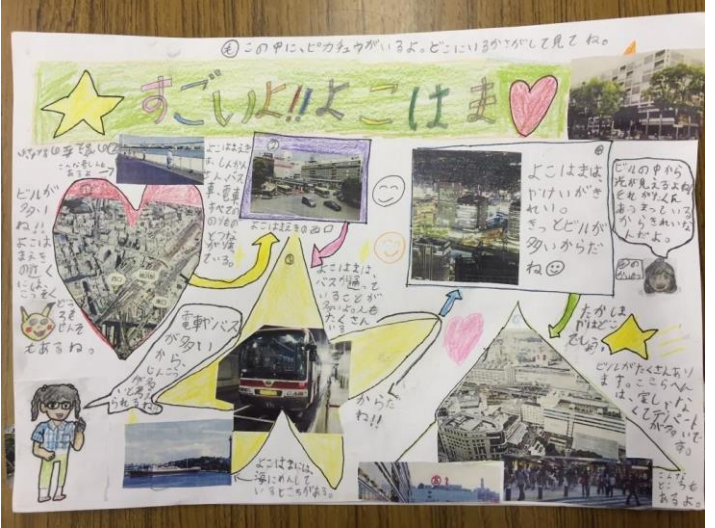
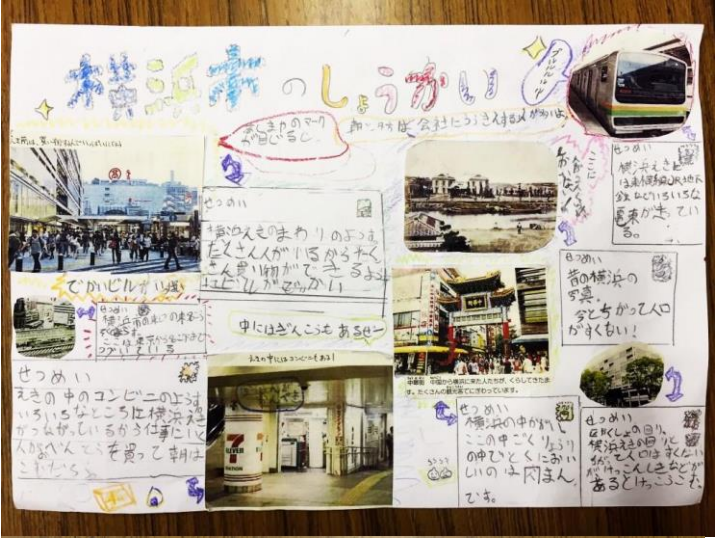
本単元では、上記の目標を達成するために「報告する文章や学級新聞など」の1つとして、「フォ

トコラージュ」というメディアの形態を提案する。

本単元では、説明文の「構成メモ」をフォトコラージュの形でまとめる。このことにより、資料を活用して説明文を書くことが容易になる。

フォトコラージュとは次に示すように、2枚以上の写真と、それに対する説明文を対応させた情報伝達の形式である。本学級では、社会科の学習のまとめとして児童が経験した。

【児童の作品例】



フォトコラージュの利点として、次のようなものがある。

(1) 取り組みやすさ

フォトコラージュの新聞作りより取り組みやすい点は次である。

①自由度の高さ

写真の形は自分で変形させたり、組み合わせたりことができ、レイアウトも自由である。

②意識的な敷居の低さ

新聞では「絵を描く」という作業が介在することが多い。絵に苦手意識のある児童は、写真を貼れば良いということが心理的にプラスに作用する。結果、抵抗なく活動に入っていける。フォトコラージュでは、絵よりも写真が主な素材となる。新聞よりも、写真を多く入れやすいのである。

本学級では、新聞や作文に強く苦手意識をもつ児童がいるが、フォトコラージュに関しては進んで取り組んでいる。児童の意識の中では、新聞や作文と別の活動なのである。

(2) 視認性の高さ

写真を多用し、レイアウトをきれいに整えようとするので、見やすい資料になる。

(3) 情報の取り扱いが具体的になる

新聞とフォトコラージュを比較すると、「調べたことを読み手に伝える」という点は同じである。相違点は何か。新聞では、どの情報をどの順序で書くかを考える。フォトコラージュでは、文章の量が自然と増やされる。写真を説明するからである。どの写真を使うか、どこを説明するか、という観点で情報を取り扱うため、主体的に考える場を増やすことができる。

(4) 指示なしで観点を増やせる

例えば、「豆腐の作り方」を説明するとする。新聞では、見出しを考えて詳しく文章を書く。見出しの作り方は任意だが、延々と文章を書いてしまうことがある。また、どのような見出しを入れたらよいかわからない。

フォトコラージュでは、写真を入れ、それに対応する説明を書く。写真や資料の数があれば、自然に文章の観点が増やせる。

(5) グループでの交流がしやすい

写真に対して説明を書くので、活動が具体的である。構想のメモに使用する場合、メモを見せ合い、自分と違った視点での気づきを交換し合うことができる。

同一のテーマでグループごとに調べ学習をする場合にも便利な形態である。また、重要度に応じて写真の大きさを変えることもでき、情報の軽重を表現しやすい。

フォトコラージュを中心的な言語活動に据える場合、時間がかかるという欠点がある。写真に文章を対応させるため、また、レイアウトをきれいにするため、図工的な要素が入る。完成までに時間がかかってしまうことが多い。時間差が生じる。時間差への対応策を考えなければならない。

<使用する機器について>

(1) ノートパソコン、テレビを資料提示のために使用する

6 評価基準

関心・意欲・態度	書くこと	言語事項
食べ物について関心を持ち、調べてわかったことを説明しようとしている。	書く目的によって必要となる事柄と観点を理解して、適切な事例を挙げて説明する文章を書いている。	説明するために必要な語句を、辞書を引いて調べている。

7 これまでの学習でのメディアの活用

(1) 社会科において

① フォトコラージュ

横浜市の特徴を調べ、まとめの活動として行った。先に挙げた図は、社会科の授業で取り扱ったものである。

② テレビ

写真資料を掲示するために使用している。

(2) 国語科において

①テレビ

パワーポイントを用いて、授業用コンテンツを作成している。主に作文の指導のために用いている。資料を掲示するために使用した。見る対象が限定され、集中力が高まりやすい。

8 指導計画

	学習活動	○支援 ○評価
1	①「食べ物のひみつを教えます」を読み、調べたい食べ物を決める。	○ワークシートを用意して、短時間で題材を決められるようにする。 ◎「すがたをかえる大豆」をもとに、自分の調べたい食べ物を決め、調べようとしている。【関】
2 3 4	①調べたい食べ物について、本やインターネットで調べる。 ②調べた情報をメモ書きする。	○司書教諭の協力を求め、百科事典の使い方を指導しておく。 ○資料の丸写しにならないよう、長い文は要約するよう助言する。 ○資料を見て、分かったこと、気づいたこと、思ったことを追記するように指示する。 ◎必要になる事項と観点を理解し、取材している。【書】
5 本時	①説明文の構想メモをつくる。	○メモ書きの手順を示す。 ◎調べたことから伝えたい話題を選び、分かりやすく情報を整理することができる。【書】
6	①構想メモを読み合う。	○気づきを共有するため、友達の考えを引用して自分のメモに追記させる。 ◎調べたことから伝えたい話題を選び、分かりやすく情報を整理することができる。【書】
7	①メモをもとに、説明文を書く。	◎調べたことから伝えたい話題を選び、分かりやすく説明文を書くことができる。【書】
8	①説明文を読み合う	◎互いの表現の仕方を比べて、上手に説明しているところに気づいている。【書】
9	①説明文を冊子にする	◎冊子を誰に読ませたいか話し合い、冊子の紹介をしようとしている。【関】

10 本時目標

○調べたことから伝えたい話題を選び、分かりやすく説明文を書くことができる。【書くこと】

11 本時展開

学習活動 ・ 予想される児童の反応	・ 指導上の留意点 ◎メディアの効果的な活用 ☆評価
1 構想メモの作り方を知る 2 構想メモを作る 3 構想メモを見合う ・ ○○さんはこういう考えを書いていた。 ・ この考えには賛成だ。 ・ この考えはどういうことだろうか。 ・ この考えには反対だ。 4 構想メモを作る	・ 構想メモの書き方のモデルを示す。 ・ 大豆の場合 ◎構想メモの作り方を視覚的に認識しやすいよう、コンテンツを準備する。 ・ メモの模範を示し、完成型のイメージを持てるようにする。 ◎模範を示すために、OHCなどの視聴覚機器を活用する。 ・ まずは「くふう」から書き始めるなど、作成の手順を具体的に示すことでスムーズに活動できるようにする。 ・ 気づきを伝え合い、友達の見解を作文に引用してよいということを伝える。 ・ 質疑を入れる。より分かりやすい表現を考えることにつながる。 ・ 交流したことをもとに、続けて構想メモを作る。 ☆調べたことから伝えたい話題を選び、分かりやすく整理することができる。【書くこと】